

令和2年5月26日

一般国道路464号北千葉道路（市川市～船橋市）に係る環境影響評価準備書に対する
事務局の意見等について

本資料は、現時点で事務局として指摘すべきと考える事項（事務局意見）を整理したものです。今後、6月の委員会（答申案審議）に向けて、委員の皆様のご意見を軸に、住民等意見、市長意見及び事務局意見を包括する内容で答申案を作成してまいりたいと考えております。

項目	意見等
事業特性	成田空港の更なる機能強化により、今後、成田空港の旅客数及び貨物量の大幅な増加が見込まれる。（準備書3-1ページ）
	本事業は目的にあるとおり、大きな役割を担う注目度が高い道路である。（準備書3-1ページ）
大気質	予測に用いた「白井市根」における既存道路（一般国道464号）の計画交通量（13,800台/日）の妥当性を明らかにすること。（同一路線の既存交通量（約3万台/日）と差異あり）（準備書10.1-35ページほか）
騒音 振動	鎌ヶ谷市～船橋市間は、北総鉄道が走行しており、騒音、振動及び低周波音の重畳的な影響が懸念される。（準備書3-2ページほか）
低周波音	予測に用いた「白井市根」における既存道路（一般国道464号）の計画交通量（13,800台/日）の妥当性を明らかにすること。（同一路線の既存交通量（約3万台/日）と差異あり）（準備書10.1-35ページほか）

項目	意見等
騒音 振動 低周波音	騒音の予測手法について、ASJ RTN-Model 2013 を最新の知見に基づき更新した ASJ RTN-Model 2018 を用いて予測した場合、遮音壁近傍、トンネル抗口近傍、高架・平面道路併設部等の騒音の値が異なる可能性があるため、ASJ RTN-Model 2018 を用いて自動車の走行に係る騒音についての予測及び評価をやり直すこと。 (準備書 10. 2-9 ページほか)
水質	<p>工事の範囲や濁水の発生量等を用いた定量的な予測が行われておらず、環境影響の程度が判断できない。 (準備書 10. 5-15 ページほか)</p> <p>環境影響の程度を明らかにするため、管理目標値の水準等を設定し、予測及び評価を行うこと。(準備書 10. 5-15 ページほか)</p> <p>定量的な予測を実施するとともに、その結果を踏まえ、環境保全措置の定量的な検討を行い、適切な環境保全措置を講ずること。(準備書 10. 5-15 ページほか)</p>
水文環境 地盤 (生態系)	<p>地下水の水位は、一般に利水や降水等による季節変動が生ずるが、現地調査(地下水位観測)の期間が令和元年8月から11月までの4か月間に限定され、十分ではないことから、当該調査について、季節変動を考慮した適切な期間で実施するとともに、その結果を踏まえて予測及び評価を行うこと。(準備書 10. 6-20 ページほか)</p> <p>河川への影響について、利根川水系手賀沼・印旛沼・根木名川圏域河川整備計画において神崎川に農業用水の取水場所の存在が認められるため、再度、利水状況を調査し、予測及び評価を行うこと。(準備書 10. 6-11 ページほか)</p>

項目	意見等
水文環境 地盤 (生態系)	水文環境（地下水）に係る予測について、数値シミュレーションにおける現況再現解析の検証結果を明らかにし、その妥当性を示すこと。（準備書 10.6-40 ページほか）
	予測及び評価について、地下式区間の各工法（開削・シールド）の採用箇所及び地表式区間の掘削範囲・深度等を明らかにした上で、適切に行うこと。（準備書 3-8 ページほか）
	地下式以外の区間においても、掘削工事等による影響が懸念されることから、予測及び評価を行い、必要に応じて環境保全措置を講ずること。（準備書 10.6-16 ページほか）
	市川市稲越町～松戸市高塚新田で最大 15cm、松戸市串崎新田～鎌ヶ谷市初富で最大 2cm の地盤沈下が予測されているが、環境保全措置を実施した場合の環境影響の回避又は低減の程度が明らかでなく、評価が適切に行われていない。（準備書 10.7-28 ページほか）
	予測地域全域における地下水、地質・水理及び土質等の状況が十分に明らかではなく、予測の不確実性が残ると考えられることから、近傍に存在する住居等への影響が懸念される。（準備書 10.6-17 ページほか）
	施工時に主要地点の地下水位及び地盤沈下の状況を観測し、その結果を施工方法に反映させるなどの必要な環境保全措置を講ずるとともに、施工後及び供用開始後に地下水位及び地盤沈下に係る事後調査を実施すること。（準備書 10.6-66 ページほか）
	周辺で地下水汚染が確認されており、施工箇所まで汚染が広がっている場合、杭の打設等により地下水汚染が拡散するおそれがある。そのため、施工前に地下水質汚染調査を行い、汚染が判明した場合には、汚染されている帯水層を的確に把握し、汚染の拡大防止対策を適切に講ずること。（準備書 4-39 ページほか）

項目	意見等
動物	オオタカについては、「猛禽類保護の進め方(改訂版)―特にイヌワシ、クマタカオ、オオタカについて―(平成24年12月環境省自然環境局野生生物課)」の内容を踏まえ、営巣林の面積、樹種、群落高及び人為的影響等を勘案し、適切な環境保全措置を講ずること。(準備書10.9-163ほか)
植物	これまで千葉県において確認されていないツノハシバミ及びヤマブドウが現地調査で確認されていることから、これらの生育状況を確認し、分布上の特異性、生育環境等を整理し、必要に応じ、重要種として予測及び評価を行うこと。(準備書10.10-70ページほか)
	既存の文献において、概ね南房総地域に分布が限定され、都市計画対象道路事業実施区域及びその周辺において確認されていないオオバノハチジョウシダ、カンアオイ、カスミザクラ、シラキ及びヒメユズリハが現地調査で確認されていることから、これらの生育状況を確認し、分布上の特異性、生育環境等を整理し、必要に応じ、重要種として予測及び評価を行うこと。(準備書10.10-70ページほか)
	移植については、移植方法や種の特性によって活着が困難な場合があることから、高い活着率を確保できるよう、種ごとに適切な時期及び場所を実施すること。また、移植する植物を苗圃で播種し、増殖を図るなど、できる限り必要な環境保全措置を講ずること。(準備書10.10-70ページほか)
生態系	地域を特徴づける生態系の注目種のうち、ホンドタヌキ、ノウサギ、ホンドアカネズミ、アオサギ、シジュウカラ、ツバメ、ヤマトタムシ、エンマコオロギ、ナミアゲハについては、生息状況の記載がないことから、確認場所、確認個体数等の生息状況を明らかにすること。(準備書10.11-9ページほか)
	「樹林環境」、「耕作地及び緑の多い住宅地環境」の主な地形区分は、低地等ではなく、台地である。(準備書10.11-6ページほか)

項目	意見等
生態系	水田は低地であることから、「耕作地及び緑の多い住宅地環境」ではなく、「水辺環境」に区分することが適当である。(準備書 10.11-6 ページほか)
	耕作地及び緑の多い住宅地環境の注目種として、シュレーゲルアオガエル及びドジョウを選定されているが、これらは水田や河川等に生息するため、改めて注目種を選定し、予測及び評価を行うこと。(準備書 10.11-9 ページほか)
	「樹林環境」、「耕作地及び緑の多い住宅地環境」、「水辺環境」の各生態系区分について、面積、改変面積、生息環境の分断の状況等を示し、定量的に予測及び評価を行うこと。(準備書 10.11-3 ページほか)